

## 第八章 事業ヲ擴張シ又ハ擴張計畫中ノ鑛山

明治四十年上半季ニ於テハ鑛產物ノ市價概シテ好況ヲ維持シタルト戰後各般ノ事業勃興ノ餘響トシテ採鑛冶金上ノ設備ニ擴張ヲ加ヘ又ハ擴張ニ着手シタル鑛山(鈔ナカラス今其重ナルモノニ付キ概要ヲ舉クレハ左ノ如シ

### (一) 金屬山

後志鑛山 金銀鑛 位 鑛業權者 德 北海道後志國余市郡赤井川村

本鑛山ハ從來專ラ採鑛ニ從事セシモ這回採鑛ニ着手シ選鑛及製鍊ノ事業ヲ開始セリ之カ設備トシテ貯鑛室、燒鑛室、冷鑛室、碎鑛室、溶解沈澱室、精製室、汽機室、汽罐室、準備室等ヲ建設スルノ外左ノ設備ヲナセリ

貯鑛箱 三 (内一ハ容量六萬貫 二ハ各一萬二千貫)

燒鑛爐 (爐内ノ容積八三五立方尺一回ノ容量鑛石十八噸一日ノ熔鑛量五十噸)

「ブレーキ」式嚙鑛器 一 (一時間ノ嚙鑛量四、五噸)

「ロール」 二 (一時間ノ碎鑛量四、五噸)

鐵製「trommel」 (一時間ノ分級量四、五噸)

溶解槽 四 (内徑二十尺、高サ内法四尺)

金液槽 二 (内徑五尺、高サ内法四尺)

亞鉛槽 八 (内徑四尺、高サ内法三尺)

貯液槽 二箱 (内徑十尺、高サ内法七、五尺、  
九尺、同、九尺)

鋸液槽 二 (内徑十尺、高サ内法七、五尺)

貯水槽 一 (内徑十尺、高サ内法七、五尺)

唧筒 貯液槽ノ青化液ヲ鋸液槽ニ送ルニ用ユ

汽機 一 實馬力四十

汽罐 徑五呎長十九呎六吋

精製爐風爐及石墨製坩堝ヲ用フ

卯根倉鐵山 銅鑛 位 置 岩手縣和賀郡湯田村  
鑛業者 佐藤 二 郎

本鐵山ニテハ燒鑛窯一千貫入十個、二千貫入一個、鋸窯五百貫入一個ヲ増築シ且ツ製煉爐ヨリ生スル烟煤ヲ採取スルノ目的ヲ以テ烟道及煙突ヲ改築シ煙煤ヲ沈澱箱ニ沈澱セシメ之ヲ泥鑛及半燒鑛ニ混シ塊團トナシ後普通ノ燒鑛ト同シク焙燒熔解ヲ行フコト、セリ

水澤鐵山 銅鑛 位 置 岩手縣和賀郡岩崎村  
鑛業者 古河 鑛業會社

本鐵山ニ於テハ三十九年中選鑛場ノ改築工事ニ着手シ四十年ニ至リ竣工セリ、又之カ爲メ汽罐二臺汽機二臺ヲ新設セリ、製鍊ニ關シテハ、ストール爐四坐、送風機一臺ヲ増設シ且ツ眞吹爐二坐、熔鑛爐一坐ヲ新設セントシ目下其工事中ナリ

釜石鐵山 鐵鑛 位 置 岩手縣上閉伊郡栗橋村、甲子村、上郷村  
鑛業者 田中 長兵衛

本鐵山ニテハ明治三十九年來大橋、大仙山兩採鑛場間ニ道路ヲ開鑿シテ軌條ヲ布設シ又鐵索ヲ二箇所ニ架設シ四十年六月竣工セリ  
大橋採鑛場新種山鑛區ニ於ケル鐵鑛中ニ存在スル硫化銅ハ從來之レヲ抽取セサリシカ四十年四月徑三尺三寸高サ十二尺ノ熔鑛爐一基、眞吹爐一坐ノ据付ニ着手シ四十年七月其工ヲ竣リ一箇月千三百斤ノ銅ヲ產出スルニ至レリ  
製鋼場現在ノ、ロール機械ハ不完全ナルノミナラス馬力僅少ナルカ故太物ノ製作ニ適セサルヲ以テ新ニ三聯式、コンデンサー付直立汽機ヲ据付ケ之ニ實馬力九百、汽壓百六十封度ノ汽罐二個ヲ設ケ分解、ロール五百五十耗徑ノモノ一組ヲ機械ノ一端ニ付シ他端ニ仕上、ロール四百五十耗徑ノモノ三組ヲ付シ共ニ三段トシ機械ヲ以テ型鋸并ニ、ヒレツ上上下下スル仕組ノモノヲ設置スル計畫ヲ立テ四十年一月ヨリ工事ニ着手シ四十一年二月内ニハ竣工ノ見込ナリ新設機械竣工ノ上ハ現在ノ中形、ロール機ヲ廢シ製鋼ノ產出ヲ倍加スルノ豫想ナリ

椿鐵山 銀鑛 位 置 秋田縣山本郡八森村  
鑛業者 武田 恭作

本鐵山ハ前年來益々事業ノ發展ヲ計リ四十年一月熔鑛爐長サ九尺一臺ヲ開設シ、鑛車ヲ改造シ、大煙突高サ百四十二尺餘ノ改築ヲ完成シ、其後三十尺ノ熔鑛爐一臺ヲ増設シ電氣鐵道ヲ布設シ、且ツ曩キニ設計セラレタル當鐵山及能代間(十一哩餘)ノ空中索道ハ十二月ニ至リ工事完成セリ  
本鐵山ノ鑛石ハ酸性ナルヲ以テ單獨ニ乾式製鍊ヲ爲スヲ得サルヲ以テ鹽基性ノ硫化鐵、石灰石若クハ酸化鐵ヲ熔劑トシテ加ヘサルヘカシス然ルニ本山ハ日本海ニ面シ海運ノ便アルモ例年十二

月ヨリ翌年四月マテハ風波烈シク爲メニ航海杜絶シ所要ノ熔解劑ヲ充スヲ得ザリシカ前記ノ索道架設工事竣成シタルヲ以テ今ヤ運輸ノ便ハ海陸共ニ遺憾ナク遂行セラレ、ニ至レリ  
斯ル事業ヲ擴張シタルニヨリ原動力ノ必要ヲ生シタルヲ以テ四十年三月第一發電所ヲ築造シ三百二十「キロワット」ノ發電機ヲ裝置シ、十一月第二發電所ヲ開設シ之ニ三百「キロワット」ノ發電機ヲ裝置セントセリ

第一發電所ノ工事ハ既ニ竣工セルニ付從來坑内ニ使用シタル唧筒等ハ全ク之ヲ廢シテ豫備トナシ更ニ電氣唧筒ヲ設置シ尙ホ百馬力ノ捲揚機械ヲ設置セリ

將來ニ於テハ乾圓爐一坐并ニ一號爐ニ對スル吸烟漏斗及鐵板製煙突、熔鉸爐一坐、山下爐二坐、眞吹爐四坐ノ増設ヲ設計シ乾式製煉ノ外ニ濕式製煉法ヲ併用セントシ目下試驗中ニ屬セリ  
又本鑛山ニ於テ操業上革新ヲ加ヘタルモノ左ノ如シ

本鑛山ニ於ケル製煉ハ熔鑛及精製ニ區分セラレ熔鑛ニ於テハ各種粉鑛ノ製團、銀鑛ノ還元製煉、銀鑛ト硫化鐵トノ自熱熔融及一番鉸眞吹鑛等ノ自熱熔融ヲ司リ精製ニ於テハ二番鉸ノ眞吹、南蠻山下吹及分銀等ヲ司ルモノニシテ元來銀鑛製煉ヲ主タル目的トスルモ多量ナル熔解劑及炭炭ヲ有益ニ利用シ同時ニ銅ノ產出ヲ計リシ爲メ四十年ニ至リ始メテ熔解劑ヨリ銅ノ產出ヲ見ルニ至レリ

小阪鑛山 金、銀、銅、鉛、  
亞鉛鑛、  
鑛業權者 秋田縣鹿角郡小阪村  
合名會社 藤田組

本鑛山ニ於ケル事業ハ前年ニ比シ大差ナキモ探鑛ニ關シテハ新ニ第二篩別場ヲ設ケ四坑道ニ電

車ヲ通シ三坑道以下ノ探鑛及開坑事業ノ進捗ヲ圖リ特ニ四坑道以下ニ於ケル探鑛ノ目的ヲ以テ千歲坑ノ開鑿ヲ始メタリ又製煉ニ關シテハ燒鉸爐、電煉場ノ新設、蒼鉛ノ試製ヲ始メタル等其主ナルモノナリ

千歲堅坑ハ大切坑即チ四坑道坑口ヨリ同坑道ヲ進ムコト約二千尺ノ所ニアリテ二十馬力ノールス「三聯單動電力」シンキングポンプ「ウオターライナー」鑿岩機及三馬力電氣捲揚機ヲ使用シ既ニ四坑道以下五十尺ニ達セリ

從來三坑道以下ノ鑛石ハ深入堅坑ニ於ケル十五馬力電氣捲揚機百三堅坑ニ於ケル三馬力捲揚機及各掘下リニ於ケル臨時人力捲揚ニ依リテ之カ捲揚ヲナシ三坑道ニ送致セルヲ以テ其取扱量僅少ニシテ且ツ運搬費ノ不廉ヲ免レサリキ然ルニ明治四十年七月ヨリ四坑道ニ電車ヲ通シ以テ此ノ不便ヲ補ヘリ

電車ハ「シーメンス」ハルスケ會社製造ノ重量八、四〇〇封度、牽行力九〇〇封度ノモノニシテ第二篩別場ヨリ四坑道坑口ニ至ル八百七十六尺ノ坑外道ト四坑道坑口ヨリ深入堅坑最前ノ停車場ニ至ル二千一百尺ノ坑内道トヲ往復シ一晝夜鑛量十六萬貫乃至十八萬貫ヲ運搬スルヲ得ヘシ

第二篩別場ハ元山字冷水ニ在リ、四坑道ヨリ搬出セラレタル鑛石ノ篩別及熔鑛場ヨリ來ル電車ニ給鑛スル所ニシテ建家ノ長サ十四間幅十間、七區ニ別レ、各二寸目ノ斜格子ヲ具ヘ各種ノ鑛石ヲ二寸以下ト以上ニ區別シ電車ニ供給スル設備ナリ

本山ニ於テ取扱フ鑛量増加スルニ從ヒ鉸ノ產出量モ亦増加シタル爲メ從來使用シ來リタル圓形

回轉燒爐七坐ニテハ不足ヲ感シ新ニ同式ノ爐三坐ヲ新設シタリ

電鍊場從來ノ裝置ハ一箇月六十萬斤ノ電氣銅ヲ產出セシムル設備ナリシカ之ニ同量ノ電氣銅ヲ產出スルニ足ル設備ヲ増設シ含銀型銅トシテ產出スルヲ全廢シ悉ク電氣銅トナセリ從テ金銀ノ產額ヲ高ムルニ至レリ

本山ノ鑛物中ニハ微量ノ蒼鉛ヲ含ミ分銀法ノ最後ニ生成スル酸化鉛中ニ著シク濃厚トナリテ存在スルカ故ニ一兩回採取ヲ試ミシモ有利ニ採取スルニ至ラサリシカ明治四十年更ニ數回ノ試驗ヲ重ネ好果ヲ得タルヲ以テ近キ將來ニ於テ之カ製出ニ着手スル豫定ナリト

#### 大地鑛山

金、銀、銅、鐵、位、置、秋田縣鹿角郡七瀨村  
鑛業權者 合名會社 藤田組

本鑛山ニ於テハ前年來繼續シテ開鑿中ナリシ大堅坑ハ三十九年九月中二番坑準ニ達シタル以來四十年五月豫定ノ如ク東一號鑛ニ達セリ同鑛ハ最モ有望ニシテ十一月末ニ於テハ其延長百五十尺ニ掘進シ漸次好況ヲ呈シツ、アリ選鑛ニ關シテハ一箇月粗鑛三十三萬貫ヲ處理スルノ目的ヲ以テ選鑛場ヲ新設シ原動力トシテハ三十馬力ノ電動機一坐ヲ設ケ製煉ハ小坂鑛山ニ於テ合併施業セリ

#### 尾去澤鑛山

金、銀、銅、鐵、位、置、秋田縣鹿角郡尾去澤村  
鑛業權者 三菱合資會社

本鑛山ハ明治三十九年中ヨリ採鑛事業ノ擴張ヲ行ヒ其工事完了シタルヲ以テ明治四十年ニ至リ製煉事業ノ擴張ヲ計リ目下「ヘレスホフ」式回燒爐三坐ノ増設工事ニ着手シ尙ホ選鑛製煉ニ關シ益々事業ノ進捗ヲ計リツ、アリ右事業擴張ニ伴ヒ原動力ノ不足ヲ來セルヲ以テ更ニ鹿角郡宮川村

字宮麓ニ第二發電所ヲ新設セントシ目下其水路ノ工事中ナリ又前年起工セル土井山許間道路開

鑿工事ハ本年之ヲ竣了セリ採鑛ニ關シテハ前年中起工ノ元山奥鑛堅坑開鑿及「リジャード」會社製三十五馬力電氣捲揚機据付工事ヲ完了シ元山新切ノ鑛石ハ右捲揚ノ便ニ依リ萬歲坑車道ヨリ直ニ選鑛場ニ輸送スルニ至リシヲ以テ從來使用セル鐵索運鑛ヲ廢止セリ

選鑛ニ關シテハ試驗ノ爲メ「ハンコック」ト稱スル大形跳汰器ヲ据付ケ其操業ニ着手シ又鑛尾處理ノ最良法ヲ究ムルノ目的ヲ以テ從來ノ「ウィルフレ」汰盤二臺ニ加フルニ「ビンダー」汰盤一臺及「フリーユーパーナ」二臺ヲ假設シ三種汰盤ノ成績ヲ比較研究中ナリ

製鍊ニ關シテハ從來使用セル圓形水箆式熔鑛爐內徑三尺五寸ノモノ一坐ヲ取毀チ之ニ代フルニ長方形熔鑛爐長サ內法十五尺幅三尺五寸ノモノ一臺ノ建設工事ニ着手シ目下進工中ナリ

#### 荒川鑛山

銀、銅、鐵、位、置、秋田縣仙北郡荒川村  
鑛業權者 三菱合資會社

本鑛山ニ於テハ坑內排水ノ爲メ約百八十馬力ノ「タービン」ポンプ三臺噴澤坑ニ於テハ百馬力ノ唧筒二臺ヲ据付ケントシ目下其準備中ナリト云フ初石坑ニ於テハ堅坑ヲ排水坑以下二百尺ニ開鑿シ茲ニ百目石坑ニ現在セル捲揚機械ヲ移設シ百目石坑ニハ更ニ一千百尺ノ捲揚機械ヲ設置シ又選鑛場ヲ増設スル爲メ目下第二選鑛場敷地ノ地均シニ着手セリ同選鑛場ノ工事完成ノ曉ニハ日々百噸ノ鑛滓ヲ處理スルヲ得ヘシ

本鑛山及日三市鑛山ニテハ漸次坑内外ノ事業ヲ擴張セル結果原動力ノ不足ヲ來シタルヲ以テ鶴養澤ニ第四發電所ヲ開設シ三相交流式發電機(電壓三千四百五十ボルト電力二百キロワット)ニ

臺ヲ据付ケントシ既ニ其工事ニ着手シ四十一年三月竣工ノ豫定ナリ

日三市鑛山 金、銀、銅、鑛業權者 置 秋田縣仙北郡中川村

本鑛山ニアリテハ堅坑ノ開鑿ニ着手シ一千百尺ヲ昇降シ得ル百馬力ノ捲揚機械据付ノ準備ヲナシ猶ホ鑛滓一日百噸ヲ處理スヘキ目的ヲ以テ第三選鑛場ノ工事ニ着手セリ

不老倉鑛山 銅鑛 鑛業權者 置 秋田縣鹿角郡大湯村 古河鑛業會社

本鑛山ニ於テハ明治三十九年工事ニ着手シタル新設選鑛場ハ四十年九月工事竣成シ一日平均粗鑛三萬三千貫ヲ處理シ製煉ニ於テハ從來燒鑛用「ストール」十個聯結ノモノ二坐アリシヲ更ニ一坐ヲ増設シ三坐トナシタリ

山縣鑛山 金、銀、銅、鑛業權者 置 秋田縣鹿角郡七瀨村

本鑛山ハ明治四十年ニ於テハ堅坑ノ掘下ヲ爲シ一方ニ於テハ横坑一番坑道ヲ開設シ堅坑ヨリ立入掘進四十尺ニ於テ本鑛ニ會シ更ニ東西ニ向テ鑛押坑道ヲ開鑿シ坑内ニ電氣唧筒二臺及「ゼット」唧筒二臺ヲ据付ケ一ハ堅坑掘下用トシ一ハ一番坑道坑井掘下用トシテ使用セリ又鑛石ノ運搬ニ關シテハ電氣捲揚機ヲ設置セリ採掘セル鑛石ハ凡テ小坂鑛山ニ販賣スルヲ以テ全ク製煉業ヲ廢止セリ

松川鑛山 金銅鑛 鑛業權者 置 岩手縣和賀郡澤内村

本山ハ素ト金鑛ヲ採取スル目的ヲ以テ事業ニ着手セシカ鑛質ノ變セルニ由リ主トシテ銅鑛ヲ採取スルコト、ナリ四十年ニ至リ合金銀銅ヲ得ルノ目的ヲ以テ選鑛場燒鑛場熔鑛爐等ノ建設ニ着

手セリ

鹿折鑛山 金、銀鑛 鑛業權者 置 宮城縣本吉郡鹿折村

本鑛山ニテハ前年ニ於テ搗鑛機二臺ヲ増設シタル結果鑛尾ノ處理上青化製煉場擴張ノ必要ヲ生シ從來使用シタル青化製煉所ヲ全廢シ明治三十九年十二月中新設製煉所ノ工事ニ着手シ明治四十年五月竣工セリ其概要ハ原液槽二個(徑六尺深五尺)熔解槽三個(徑十六尺深四尺九寸)貴液槽二個(徑三尺五寸深二尺)貯液槽大小五個(徑六尺乃至七尺深サ孰レモ五尺)亞鉛澱函大小四個(唧筒一臺等ニシテ一箇月鑛量十八萬貫ヲ處理ス亞鉛澱函ハ長方形ノモノハ之ヲ廢シ代フルニ木槽七個ヲ使用セリ

細倉鑛山 銀鑛 鑛業權者 置 宮城縣栗原郡鶯澤村

本鑛山ハ明治三十六年以後休業シ其間僅ニ殘鑛ノ選別及製煉ヲ爲シタルコトアリシニ過キサリシカ明治四十年六月ヨリ亞鉛鑛ノ選鑛ヲ專ラトシ之ニ伴フ銀鉛鑛採取ノ目的ヲ以テ一箇年粗鑛約一千百餘萬貫ヲ處理スヘキ選鑛場及一箇年精鑛約二十三萬貫ヲ處理スヘキ製煉場ヲ開設スルノ設計ヲ爲シ其工事進行中ナリ

加納鑛山 金、銀、銅、鑛業權者 置 福島縣郡加納村

本鑛山ニ於テハ明治四十年中新ニ左記ノ設備ヲ施シタルノ外工作物ノ設置變更ヲ爲シタル等益々事業ノ發展ヲ計リ大平坑發電所ハ既ニ工事ニ着手シ目下致々トシテ其竣成ヲ急キツ、アリ又選鑛ニ關シテハ一箇月粗鑛四百萬貫ヲ處理シ精鑛百二十萬貫乃至百五十萬貫ヲ得ヘク製煉ニ關

シテハ更ニ熔鑛爐及反射爐ヲ設置シ現在ノ熔鑛爐ト合セ產銅三十萬斤乃至三十五萬斤ヲ得ル程  
度ニ擴張スル設計ナリ

本鑛山ハ事業ノ擴張セラル、ニ從テ就業人員ノ増加著ク(明治三十九年七月ニ於ケル鑛夫ノ總數  
百二人ニ増加)此等人員ヲ收容スヘキ社宅鑛夫長屋等ヲ増設シタリ

多管式五十馬力汽機

一 選鑛用

四十五馬力橫置形汽機

一同

「ハンチントンミル」

一同

跳汰器

一同

「ウキルフレ」汰盤

三 同

「ビンター」汰盤

三 同

遠心唧筒

一 同

鍊鑛機

二 製煉用

十馬力電動機

一 同

「スタンブ」

四 同

叶津鑛山 銅鑛

位 置 福島縣南會津郡伊北村  
鑛業權者 久保 勇 外一名

本鑛山ニ於テハ採鑛ニ關シ一番坑道ニ於テ四八梓ノ堅坑開鑿工事ニ着手シ目下七十尺ニ掘進  
シ大切坑道ハ從來四五柳ナリシヲ坑口ヨリ六百尺ノ間追切ヲナシテ四七トナシ坑道ノ延長千八

百尺ニ及ヒ之ニ十二封度軌條ヲ布設シ鑛砂ノ運搬ヲ便ニセリ

選鑛ニ關シテハ百八十間餘ノ水路ヲ開キ水車一臺ヲ設置シ原動力ヲ得「ブレーキ」式嚙礦機及五本  
立搗鑛機一臺ヲ裝置シ精鑛量ノ増加ヲ計リ製煉ニ關シテハ焙燒窯六個ヲ増設シ粗鑛ノ焙燒ニ供  
シ且ツ絞燒窯二個ヲ新設セントシ目下其工事中ナリ其他製煉場ニハ輕便堆土高爐ヲ設ケ之ニ要  
スル送風機及原動裝置(水車)ハ目下工事中ナリ

日立銅山 銅鑛

位 置 茨城縣多賀郡日立村  
鑛業權者 久原 房 之 助

本鑛山ハ昨三十九年ニ比シ著ク事業ノ擴張ヲテセリ其概要左ノ如シ

地表各方面ニ於テ本坑鑛及中盛鑛ノ露頭ヲ精査シ坑口ヲ開キ探鑛ヲ專ラトシ東ニ第三中盛坑ノ  
富鑛帶ヲ新ニ發見シ西ニ二百八十尺坑二百三十尺坑掛格等ノ鑛帶ヲ見出シ銳意探鑛ノ實ヲ舉ケ  
タリ就中第三中盛坑ノ如キハ鑛鑛ノ幅最大四十尺ニ及ヒ最小ト雖モ亦二十尺ヲ下ラス其露出延  
長約千尺ニ垂ントス其鑛質平均五〇變化ナシ坑内作業ハ第二第三ノ堅坑ヲ下シ第二堅坑ハ神峯  
部(鑛幅二十五尺平均四〇)ノ下底ヲ探鑛シ製煉所地準ヨリ既ニ百五十尺ヲ下リ尙ホ掘下中第三堅  
坑ハ本坑方面ノ下底ヲ探鑛シ同水準ヨリ約四百尺ノ下底ニ達ス上下ニ於ケル鑛質ハ孰レモ又共  
ニ變化ナシト云フ

本坑西延ノ引立最モ西ニ延長シタル坑道ニ於ケル鑛鑛ハ其幅二十尺餘ニシテ其含銅ハ現時下降  
シ約二〇ナルモ前途頗ル有望ナリト云フ

右坑内ノ景況良好ナルヲ以テ運搬ノ目的ニテ掘下シタル第一堅坑ノ完成ヲ急キ現時製煉地準ヨ



リ三百尺ノ地下ニ進ミ二百尺坑道以上ハ捲揚ヲナスヲ得ルニ至レリ  
採掘ニ關シテハ三十九年ニ於テ「ライナー」式鑿岩機二臺ヲ使用セシニ止マリシカ電力供給ヲ得ル  
ニ至リシヲ以テ新ニ七十五馬力「ノールス」式壓搾機ヲ設置シ之ニ舊來ノ三十五馬力壓搾機ヲ加ヘ  
鑿岩機六臺ヲ以テ急速進掘ヲ爲シツ、アリ、採鑛ハ主ニ錘押ニヨル採鑛ニシテ所謂手握階段法ヲ  
開始シタルハ僅カニ一二個所ニ過キス

今採鑛部ニ於ケル機械裝置ヲ畧述スレハ左ノ如シ

一、第一堅坑捲揚機

一臺

「リチャード」式五百實捲キ  
動力トシテ三十二、七五馬力「ウエスチング」ハウス「社製」電動機ヲ附屬ス

二、第二第三堅坑捲揚機(同一式)

二臺

「リチャード」式二百四十實捲キ  
動力トシテ三十二、二〇馬力「ウエスチング」ハウス「社製」電動機附屬

三、空氣壓搾器

二臺

「ノールス」社製三五馬力壹臺  
同「社製」七五馬力壹臺「附屬」レシーバー壹個

四、鑿岩機「ウオーターライナー」會社製

六臺

五、坑内排水用唧筒

三臺

「ノールス」會社製五馬力電動機附屬「スリースロー」電氣唧筒

又本鑛山ノ選鑛ハ從來坑内ヨリ搬出シタル鑛石ヲ大別シテ三寸以下ハ洗場ニテ洗滌セシモ現時  
ハ一切之ヲ廢シ只時々鑛石中ノ研ヲ手選ニヨリ抽出スルニ過キス是レ鑛石ノ品位ト製煉法ノ進

歩ニ伴ヒ精細ナル選鑛ノ必要ナキニ因ル

本鑛山ニ於テ冶金上ニ關シテハ著ク擴張セリ即チ三十九年ニ於テハ長八尺幅三尺五寸爐一座及  
二呎十吋ノ丸爐一座都合二座ニテ製煉シ居リシモ四十年ニ於テハ前記丸爐ヲ廢シ左ノ如キ設備  
ヲナシタリ

一、熔鑛爐八尺爐(幅三尺五寸)

三座

二、濃鈹爐四尺丸爐

一座

三、眞吹爐

十座

四、製團用「スタンプ」

三十挺(木製)

五、送風器「ルーツ」十番形

一臺 同六番一臺

六、製煉原動用トシテ三十九年ニ於テ二十馬力直流電動機十二馬力「ケルチング」瓦斯發動機及三十  
馬力「ボーターブル」汽機付蒸汽罐ヲ使用シ來リシモ之ヲ廢止シ四十年ニテハ送風機原動用トシ  
テ左ノ動力ヲ使用セリ

百四十馬力交流 電動機

一臺

二十馬力交流 同

一臺

其製煉ニ關スル運搬方法ノ改良トシテ左ノ方法ヲ講セリ

製煉「ホイスト」用

三〇馬力

電動機附捲揚 一臺

製團「スタンプ」用

二〇馬力

電動機 一臺

唧筒用

二〇馬力

電動機

一臺

銻石運搬用隱作鐵索

二〇馬力

電動機

一臺

鑛石運搬用インリライン二〇馬力

電動機

一臺

右探鑛及製煉ニ供給シ居レル電力ハ既設隱作發電所ニ加フルニ四十年四月茨城縣久慈郡中里村

ニ於テ水力ヲ利用シ「モルガン、マツクロミツク」會社製六百萬馬力ノ「タービン」及交流三相式三千五百「ボルト」四百「キロワット」ノ發電機ヲ据ヘ之カ竣功ヲ告ケシヲ以テ比較的ニ原動力ヲ増加セリ

今後尙ホ動力ノ需要ヲ感シ居ルヲ以テ中里村發電所ヨリ一哩下部ニ四百馬力ノ「タービン」ヲ据ヘ交流式發電機ニヨリ三百「キロワット」ヲ鑛山ニ送致スル計畫中ナリ

要スルニ四十年ニ於ケル事業擴張ハ電力工事ノ完成ト共ニ大ニ其面目ヲ改メ探鑛ニ製煉ニ着々成功シ四十一年上半年期ノ末ニハ產銅月額三十萬斤ニ達セシメントシ銳意操業シツ、アリト云フ尙ホ四十一年ニテハ運搬改良ノ一端トシテ大雄院ヨリ鑛山ニ至ル間ニ複線鐵索ノ設備及銻石運搬用ノ單線鐵索、助川、大雄院間ノ道路改修ヲナシ電力増加ノ目的トシテハ中里發電所下部ノ新規發電所等ヲ設置スルノ計畫ヲナセリト、

佐渡鑛山

金銀銅鑛

鑛業權者

新潟縣佐渡郡相川町三益合資會社

本鑛山ニ於テハ探鑛製煉共ニ三十九年ニ比シ著キ變化ナキモ搗鑛場、砂鑛青化場ノ設置及原動力ノ變更等將來事業擴張ノ一部ト認ムヘキモノアリ其搗鑛場ノ増設トシテハ給鑛機、搗鑛機、前銅板、橫震銅板、ダンカン各十二ニシテ四十年中ニ於テ其基礎工事ヲ完了シ又砂鑛工場ノ擴張トシテハ

既設工場ノ東端ヲ延長シ沈定池九、容解槽三、亞鉛箱二、離心唧筒二ヲ設クルニアリテ四十年中ニ於テハ其一部ノ出來ニ止マリ動力變更工事トシテハ「バブコック、ウキルコックス」汽罐二（四十年中完成）「グリーン式」エコノマイザー、「スーバー、ヒーター」一此他煙突電動機等ヲ設クルアリ四十年中ニ完成セシモノノ外ハ四十一年ニ於テ竣成ノ豫定ナリ

持倉銅山

銅鑛

鑛業權者

新潟縣東蒲原郡下條村小出淳太

製煉方法トシテ從來山下吹ヲ採用シ來リシモ鑛石品位ノ下降ニ伴ヒ多量ノ貧鑛ヲ處理スルノ必要ヲ生シ四十年下半年期ニ於テ生鑛製煉ノ目的ニテ（三尺六寸經）ノ「ピルツ」式丸形水胴爐一基煉鉸用粘土製高爐一基三百貫吹眞吹爐三座ヲ据ヘ送風ニハ「ルーツ」式四番形送風機一臺ヲ用ヒ發動機トシテ內經四尺ノ「ベルトン」水車ヲ用ユルノ豫定ニテ四十年末ニハ既ニ工事ノ半ヲ了セリ

足尾銅山

銅鑛

鑛業權者

新潟縣上郡賀郡足尾町古河鑛業會社

本銅山ニ於テ明治四十年中ニ施設セシ事項ハ堅坑ノ新設壓氣機ノ増設及電氣精銅所ノ擴張等重ナルモノトス

一、光盛前鍾堅坑ノ新設

通洞光盛第一堅坑方面通洞地並以下各坑道ノ運搬力ヲ擴張スル爲メ其附近ニ前鍾堅坑ト稱スル新堅坑ヲ開鑿セリ其「ケージ」用梓間ハ四箇人道用梓間ハ一箇ニシテ各「ケージ」用梓間ノ幅四尺二寸長サ六尺ニ人道用梓間ノ幅三尺長サ六尺ナリ深サ三百三十尺（即三番坑地並ニ達ス尙引續キ掘進ノ見込ナリ



一、簀橋堅坑ノ新設

簀橋方面ハ從來頗ル豐饒ナル鑛床ニ富メルモ其運搬設備ノ不充分ナルタメ採掘意ノ如クナル能ハサリシヲ以テ通洞地並以上ノ同方面坑道ノ運搬力ヲ増加センカ爲メ四十年五月中從來七號井ト稱シタル坑井ヲ改造シテ二個ノ「ケージ」用梓間長サ六尺幅四尺二寸一個ノ人道用梓間長六尺幅三尺ヲ有スル堅坑ノ新設ニ着手セリ但シ其全深サハ通洞地井上九番坑ヨリ通洞地並ニ通スル五百三十尺ヲ開掘スル豫定ニシテ既ニ六番坑以下百八十尺ヲ開鑿セリ

一、壓氣機械ノ増設

堅坑掘下及坑道掘進ノ急速ヲ期スル爲メ通銅坑内ニ於ケル左記個所ヲ五個ノ壓氣機ヲ増設シ從來使用ノ小形壓氣機二個ヲ廢止セリ

| 設置個所      | 壓氣機名稱   | 壓氣機數 | 鑿岩機數 | 使用馬力 | 備考  |
|-----------|---------|------|------|------|---|
| 元盛第一堅坑方面  | 「ライナー」式 | 二    | 二    | 一七五  | 從來使用ノ五十馬力「ライナー」式壓氣機壹個取外セリ<br>從來使用ノ五十馬力「シューラム」式壓氣機壹個取外セリ |
| 光盛第二堅坑方面  | 「ライナー」式 | 一    | 八    | 一〇〇  |   |
| 橫間步第三堅坑方面 | 「ライナー」式 | 一    | 八    | 一〇〇  |   |
| 小瀧坑道地並方面  | 「ライナー」式 | 一    | 四    | 七五   |   |
| 計         |         | 五    | 三二   | 四五〇  |   |

一、電氣精銅所ノ擴張

從來日光電氣精銅所ハ足尾銅山ヨリ產出スル「ベセマー」銅及其他古河鑛業會社ニ屬スル鑛山ヨリ產出スル合金銀銅ノ分離ヲ目的トシ所產ノ沈澱銅ハ「インゴット」及「ワイヤバー」ト稱スル二種ノ型銅トナシ「ワイヤバー」ハ同會社所屬深川分銅所ニ送り製線ノ原料トナシ「インゴット」ハ其儘販賣シツ、アリテ其裝置ハ一箇月五十萬斤ノ精銅ヲナスニ適スルモノナリシガ今回同所ニ於テ「ワイヤバー」ヨリ銅線ノ製作ヲ開始スルト同時ニ精銅高ヲ一箇月八十萬斤ニ増加セシムルノ計畫ニシテ四十年下半年期ヨリ在來ノ分銅工場ヲ擴張シ新ニ展延工場及製作工場ヲ設置シツ、アリテ目下其大半竣功シ四十一年上半年期內ニハ之レガ全部落成スヘキ豫定ナリ

又本鑛山ニ於テ操業上革新ヲ加ヘタル點左ノ如シ  
小瀧本山間坑内運搬線ノ革新從來小瀧方面ヨリ本山ニ輸送スル貨物ハ明治三十年ノ新設ニ係ル電車坑道ニ由リ小瀧坑口ヨリ小瀧大堅坑ニ至リ分岐シテ一ハ上磐鉋ニヨリ他ノ一ハ下磐鉋ニヨリ兩者ハ「大盛十文字」ニ於テ相合シ新盛鉋ヲ經テ橫間步鉋ニ至リ本山有木坑ニ達スルモノナリシカ此ノ如ク迂廻セル經路ヲ短縮セシモンカ爲メ小瀧大鉋奥鉋ヲ開鑿シ橫間步鉋西端ニ聯絡セシムル工事ヲ三十九年末ニ落成シ四十年ヨリハ此新設經路ニヨルノ運搬ヲ開始セリ而シテ現狀ニ於ケル該經路ニヨル運搬貨物ハ主トシテ小瀧坑場所產ノ精鑛ノミナルモノ漸次木材其他貨物ノ運搬ヲ開始スル計畫ナリ

右新經路ニヨルトキハ小瀧坑口ヨリ有木坑口ニ至ル延長一萬〇四十五尺ニシテ從來上磐鉋ヲ經由セシモノニ比シ四千五百四十七尺下磐鉋ヲ經由セシモノニ比シ二千九百四十四尺ノ短縮ヲ來

セリ

製煉場ノ改築 在來ノ製煉場ハ工場裝置ノ順序轉倒シ之ニ基因スル損失ハ骸炭ヲ徒費スルノミナラス、運搬、動力其他ニ於テ損失スル處少カラス且ツ其諸機械建物ノ多クハ明治二十六年若ハ三十一一年ヨリ繼續使用シ來リシモノニシテ既ニ破損シ不用ニ歸セントスルモノ多ク一般ニ其功率ヲ減殺シツ、アルヲ以テ現状ヲ持續スルニハ勢ヒ之レカ大修繕ヲ行ハサル可ラス然レトモ如斯大修繕ハ操業ノ傍ラ到底之レヲ決行スルコト能ハサルニヨリ結局根本的ニ改築シ同時ニ改良ヲ加ヘザル可カラザルニ至レリ(又近年粉鑛ノ產額ハ益々増加シテ塊鑛ノ二倍強ニ達シ之レカ全部ヲ從來ノ方法ニヨリ處分スルコト或ハ不可能ニ非サランモ不經濟タルヲ免レザルヲ以テ該粉鑛ノ一部ニ對シテハ特別ノ處分法ヲ設ケサルヘカラサルニ至リタルモ此ノ處分法ハ尙ホ未確定ナリ)右ニ付在來製煉場ノ北方舊焙燒爐及推燒爐敷地及附近三千坪ヲ以テ新製煉場ノ敷地トシ客年下半期ヨリ之レカ建設ニ着手シタリ

新製煉場ハ別ツテ煉鑛工場、熔鑛工場、煉銅工場、鑄銅工場及燒鑛工場トス  
該製煉場ニ於ケル操業ノ順序ヲ畧說スレハ塊鑛及塊鑛量ノ八割ニ相當スル粉鑛、鍊鑛工場ニ於テ製團セルモノヲ熔鑛工場ニ送り生鑛吹熔鑛ニ附ス熔鑛爐ハ直立長方形米國式ニシテ裝入口ヨリ底坩ノ表面ニ至ル高サ十四呎二吋ナリ、高サ十二呎ヲ有スル鋼製水胴ヲ備フ其敷合計三坐トス内一坐ハ材料ヲ米國ニ採リ水胴部斷面ノ長サ十三呎四吋幅三呎六吋羽口(四、五吋)二十四ヲ有ス他ノ二坐ハ本邦ニ於テ製作スル豫定ニシテ斷面ノ長サ何レモ十七呎四吋幅三呎九吋羽口(經四、五吋)三

十ヲ有ス大形ノモノハ一日百噸小形ハ六十噸前後ノ鑛石ヲ熔解セシムルノ計畫ナリ熔鑛爐ヨリ產出スル鑛ノ品位ハ百分中銅三十六ノ豫定ニシテ之ヲ鍊銅工場ニ送り鍊銅ス、鍊銅爐ハ水壓回轉機ニヨリ百九十度ニ回轉スル「ベセマー」式「コンパター」二坐ヲ常用シ豫備トシテ同式ノモノ二坐ヲ有ス其大サ直徑六呎長サ八呎四吋、外圍ハ厚サ二分ノ一時ノ鋼板ヲ用ヒ内面「ライニング」ノ一部ニハ粉鑛ヲ混シ同時ニ其含銅ヲ抽出スルノ計畫ニシテ熔解銅ハ鑄銅工場ニ致シ型銅トナス一日ノ產出型銅四萬斤ノ見込ナリ

前記熔鑛場ニ於テ取扱ヒタル粉鑛ノ殘部ハ燒鑛工場ニ致シ「マクドガル」回轉式燒鑛爐二坐ニヨリ燒鑛ス同爐ハ明治三十六年中試驗燒鑛ニ使用シタルモノニシテ今回之ニ改良ヲ加ヘタルモノトス之レハ高サ二十呎直徑二十呎ナル煉瓦製外壁ヲ有シ鐵板ニ包裝セラル其内部ハ五段ノ燒床ヲ有シ水胴式直立軸及各段ニ十五枚宛ノ攪拌鋤ヲ備ヘタル回轉支腕ヲ供フ其一日ノ燒鑛量三十噸ノ豫定ニシテ右燒鑛シタル粉鑛ハ特別ノ熔鑛法ニヨリ處分スヘキ計畫ナルモ其方法尙ホ確定セ

ス  
右製鍊場ハ四十一年六月マテニ全部竣工ノ豫定ナリ

西澤鑛山 金銀鑛 位 置 栃木縣鹽谷郡栗山村  
鑛業權者 西澤金山探鑛株式會社

本鑛山ハ明治三十九年十二月初メテ事業ニ着手シ四十年ニ至リ漸ク探鑛ノ一部ヲ開始セリ其結果處々ニ良鑛ヲ產シ殊ニ三號鑛ノ如キハ延長約二百尺迄ハ相當ノ鑛石ヲ包藏シ尙ホ其先キ二百尺ハ同一品位ノ鑛石ヲ產出スヘキ見込確定セルヲ以テ本坑道及山神坑道ノ冠ニ掘上リ上向階段

掘ヲ爲サントスルノ計畫ニテ銳意進掘中ナリト云フ其他小瀧澤方面ノ探鑛及大黒坑ノ探坑ハ尙ホ掘進中ニ屬ス

探掘スヘキ鑛石品位ハ最低合金百萬分四、合金十萬分五以上ニシテ平均品位ハ合金十萬分ノ一、三含銀萬分ノ二ナリト云フ

右鑛石ヲ處理スル爲メ新ニ選鑛、製鍊ノ設備計畫ヲナシ明治四十年中ニ於テハ選鑛場五、分析所一及事務所、倉庫、鑛夫納屋等三十五棟ヲ建設シ其他ノ選鑛、製鍊等ニ關スル器具機械等ハ四十一年中ニ於テ設置スルノ豫定ナリ

## 本戸ケ澤鑛山

銅鑛

位

置

鑛業權者

田

中

伊

三

原

村

郎

從來本鑛山ハ舊坑ノ取明ケ及探鑛、開坑ニ從事シ徹々トシテ振ハス事業ノ見ルヘキモノナカリシカ四十年四月現權者譲受ケ以後左記事業ノ革新ヲナスニ至レリ

坑内事業ノ擴張 從來一番疏水坑道以下ノ本鑛坑内ハ浸水シ本鑛山ノ主腦タル同鑛下部ノ探掘ヲナスニ由ナカリシカ鑛業權移轉後第一着ニ之ヲ排出センカ爲メ「ウオーシントンポンプ」二臺（馬力十三、徑三呎六吋、長十二呎ノ「コルニッシュ」汽罐一臺ヲ發動機トス）ヲ新設シタル結果同坑道地并以下二百尺ナル二番坑及其下部二百尺ナル三番坑排水ノ目的ヲ達シ目下該兩坑道ノ掘進ヲ恢復シ處々ニ探鑛場ヲ發見スルニ至レリ

製鍊場ノ新設 從來探掘セル鑛石ハ手選及箒揚ケヲ施シ其儘貯藏シツ、アリシカ四十年七月ヨリ製鍊場ノ新設ニ着手シ十二月末ニ至リ其工事ヲ完成シタリ左ニ其概要ヲ記載ス可シ長四呎六

吋幅三呎高サ二十四呎ノ長方形水胴熔鑛爐一臺（鑛鐵製水胴ノ高三呎六吋ニシ）ヲ以テ生鑛吹ヲナシ之レヨリ得ル銹ハ地床三座ヲ用ヒ眞吹ヲ行フ送風ニハ「ルーツ」五番形扇風汽機一臺ヲ使用シ徑六呎三吋八分ノ七長二十三呎三吋四分ノ三ナル「ランカシャー」汽罐一臺ニヨリ給汽ス目下一箇月所産ノ精鑛（含銅九〇）量ハ一萬五千三百貫目ニ過キサリニヨリ毎月五日間ノ熔鑛ヲ行ヒ粗銅七千九百五十八斤ヲ製出スルノ豫算ナリ

## 繩地鑛山

金銀鑛

位

置

鑛業權者

機

靜

岡

縣

賀

茂

郡

下

河

津

村

吉

本鑛山ノ事業着手ハ明治三十七年ニテ當初甚タ振ハサリシモ明治四十年一月ニ至リ選鑛場及製鍊場ヲ設置シ大ニ其面目ヲ改メタリ坑道延長二百尺ヨリ四百尺ニ至ル（皆鑛押坑道ナリ）間銀間歩第四號引立ニ斷層面ヲ表ハスノ外各引立ノ模様良好ナリ就中銀間歩第一號第五號、山神第五號ハ最有望ナルカ如シ鑛脈ノ走向ハ皆畧百四十度ヲ有シ傾斜五十度乃至八十度ヲ示シ鑛脈ノ幅ハ一尺五寸乃至五尺ヲ有ス

鑛石品位ハ平均金十萬分ノ一、銀萬分ノ一トス

四十年中ニ於テ設置セシ選鑛ノ機械ハ「ブレーキ」式嘴鑛機一（七馬力搗鑛機二）五挺杵一組杵重量百

〇四貫「ウキルフレー」式淘汰盤一「リンクンバハ」式尖面一

ニシテ製鍊用トシテハ原液槽二（徑十二尺深七尺四寸）貯水槽二（徑十二尺深七尺四寸）滲出槽九（徑十二尺深五尺金液槽二）（徑六尺深三尺八寸）沈澱函三（長十五尺深一尺六九、幅二尺一寸）受液槽三、離心唧

筒一ナリ

又右選鑛製鍊ニ要スル動力トシテハ單第高壓汽機一、二、三式汽機一ヲ使用セリ

神岡鑛山 金銀銅鉛 鑛業權者 三井鑛山合資會社

本鑛山ニ於テハ隣接鑛區タル跡津川鑛山及下ノ本鑛山ヲ買收シ是ニ茂住鑛山ヲ合併シ又永ク休止ノ姿ニアリシ蛇腹、鉛谷、持壁、池ノ山、清五郎谷坑等ノ取明ケ及採鑛ニ着手セリ又漆山坑ニ金、銀、銅、鉛、亞鉛、蒼鉛ノ一大塊狀鑛床ヲ發見シ採鑛スルト共ニ持チ淵ヨリ大通洞ヲ開穿シ同鑛床及從前ヨリ稼行シツ、アリシ塊狀鑛床ノ下部ニ達セシメ採鑛ト共ニ疏水ヲ兼ヌルノ目的ヲ以テ掘鑿中ナリ、尙ホ明治三十九年以來亞鉛鑛ノ選鑛販賣ヲ企畫セリ四十年ニ於テハ選鑛場製鍊場ヲ擴張シ一箇月選鑛ハ二百萬貫ヲ製鍊ハ六十萬貫ヲ處理スルノ計畫ヲ以テ選鑛及製鍊ノ器具機械ノ設置中ニシテ四十一年ニ至リテ完成スルノ豫定ナリ

畑佐鑛山 銀銅鉛鑛 鑛業權者 岐阜縣郡上郡畑佐村 奥濃鑛業株式會社

本山ハ採鑛ヨリモ寧ろ舊廢鑛舊鑛ノ處理ヲ主眼トスルモノニシテ四十年ニ於テハ精鑛一箇月六萬貫ヲ處理スル目的ヲ以テ左記ノ擴張ヲ爲セリ

當川流域ヲ堰止メ「タービン」水車ヲ据付ケ落差十五尺、水量每秒四十立方尺、馬力五十乃至六十ヲ以テ左ノ諸選鑛機械ヲ動カスモノトス

一、「トロンメル」 徑三尺 長六尺

一、回轉手選臺圓形徑十尺

一、「ブレーキ」式嚙鑛機 徑四吋 長十吋

一、「パンチントンミル」 三呎六吋

一、尖 函

一、「ウイルフレー」汰盤

尙ホ從來ノ六番坑前選鑛場ニ左ノ機械ヲ増設セリ

一、「トロンメル」 徑三尺 長六尺

一、回轉手選臺圓形徑十尺

一、尖 函

一、「ウキルフレー」汰盤

遊泉寺鑛山 銅鑛 鑛業權者 石川縣能美郡里川村 芳谷炭坑株式會社

本鑛山ハ既設ノ選鑛設備ヲ以テ完全ニ鑛物ヲ處理スル能ハサルニ至リ更ニ跳汰器四臺、嚙鑛器一臺、手選帶二臺、圓筒篩六臺、「オバーストローム」式淘汰盤二臺、「ビンダー」式淘汰盤一臺、「ウキルフレー」式淘汰盤一臺ノ増設ヲ竣リ以テ其精選ニ遺憾ナカラシメンコトヲ期セリ從來選鑛ノ爲メ供給シタル原動力ハ専ラ汽機及電動機七十馬力ヲ使用セシカ可及的生產費ノ節約ヲ圖ル爲メ更ニ別宮村ニ水力電氣工事ヲ起シ又佛大寺村ニ貯水池ヲ設ケ選鑛用水ニ供スルノ設計ヲ爲シ工事急進中ナリシカ四十年ニ至リ前者ハ既ニ竣工シ後者亦落成ヲ告ケントス而シテ貯水池完成ノ曉ハ從來一日ノ鑛石處理高四千八百貫ナリシヲ七千貫ニ増大ナラシムルヲ得ヘシ

選鑛設備擴張ト共ニ製鍊場ノ位置ヲ變更シテ選鑛場ニ隣接セシメ其設備ヲ角爐(長八尺幅三尺)一

座圓爐徑四尺一座眞吹床八座、ルーツ式五番型及、グリーン式五番型各一臺ノ送風機及「ボールミル」一臺ヲ据ヘ煙突(磚瓦製)高九十五尺、断面五尺四寸、二個ヲ築キタリ  
又山元、小松間ニ於ケル軌道布設ノ計畫ハ全部竣工シタルヲ以テ四十年十一月ヨリ鐵道機關車ノ運轉ヲ開始セリ此ノ運搬力ハ機關車ノ重量七噸ニシテ三噸積ノ貨ヲ六臺ヲ牽クヲ得ヘシ  
尙ホ本鑛山ハ隣接鑛區ヲ併合シ専ラ探鑛ニ力ヲ致セリ而シテ當時使用ノ堅坑ハ舊鑛主時代ニ比シ更ニ百五十尺ヲ掘下シ全深七百五十尺ニ達セリ

尾小屋鑛山 銅鑛 位置 石川縣能美郡尾村、別宮村  
鑛業權者 横山 隆 後村

本鑛山ハ波佐羅鑛山ヲ買得シ合併施業ヲ營ムニ至リシ以來鑛量噸ニ増加シ現在ノ選鑛機械一箇月四十萬貫ヲ處理スルニ足ルヲ以テ之レカ處理ヲ全フスルコト能ハサルニヨリ選鑛場ノ左側ニ更ニ百五十坪ノ工作物ヲ増築シ手選帶二臺、クローム、ロール一臺、ハンチングトン、ミル一臺圓筒篩二個跳汰器四臺、オーバーストローム式淘汰盤三臺ヲ増設スルノ計畫ヲ以テ四十年四月以來工ヲ起シ畧ホ完成ヲ告ケントスルニ至レリ而シテ之カ原動力ハ約六十馬力ヲ要シ既設ノ石油發動機二臺(四十馬力)ニテハ到底之レニ應スル能ハサルヲ以テ(最モ水量増加ノ際ハ)ベルトン式水車ヲ用キ全馬力ヲ供給シ得ヘキモ其缺乏ノ時期ニ於テハ之カ補足ヲ要ス(其需用ヲ充タサン爲メ)サクシヨン瓦斯發動機ヲ使用セントスルノ設計ヲ爲セリ此ノ擴張ノ結果ハ一箇月六十萬貫目ノ鑛石ヲ處理シ製銅十三萬斤ヲ得ヘキ豫定ナリ

多田鑛山 銀銅鑛 位置 兵庫縣川邊郡  
鑛業權者 堀 謙十郎

本鑛山ニ於テ三十九年以來ノ設計ニ係ル機械選鑛ハ既ニ二百餘坪ノ建物ヲ落成シ目下「ブレーキ」式噴鑛器一臺手選帶(長三十一呎)二臺、クローム、ロール二臺、ハーツ式跳汰器七臺、ハンチングトン、ミル一臺、ウルフレー式淘汰盤二臺、ビンダー式淘汰盤一臺、パツドル一臺尖箱數個及圓筒篩八個ノ据付中ナリ

從來使用ノ原動力ハ汽罐三十五馬力汽機十馬力ナリシモ新設ノ機械選鑛場落成スルトキハ多大ノ馬力ヲ要スルヲ以テ四十年四月以來更ニ原動用トシテ徑六呎長二十四呎常用氣壓百二十封度(八十馬力)ランカシア式汽罐ヲ製造シ既ニ其据付ヲ竣リ尙ホ八十馬力ノ複汽筒凝縮汽機ヲ設置スルノ計畫ナリ以上ノ設計ハ四十一年二月ヲ以テ完成スルノ豫定ニシテ竣工ノ曉ハ一箇月四十萬貫ノ鑛石ヲ處理スルヲ得ヘシト云フ

尙ホ前年來工事中ナリシ瓢箪間歩舊坑ノ下底ニ向ヒ本鑛山ノ排水準線ニテ約二千四百尺ノ大坑道ヲ開進シ且舊坑附近ヨリ小堅坑ヲ降下シ地表ヨリ百三十五尺ニシテ大坑即チ鑛床部ニ到達シ既ニ四十年七月中旬ニ於テ兩者ヲ連絡セリ從テ坑内ノ通氣ヲ良好ニシ又運搬上多大ノ便ヲ與ヘタリ

生野鑛山 金銀銅鑛 位置 兵庫縣朝來郡生野町  
安賀母尼鑛 鑛業權者 三菱 菱合 資 會 社

本鑛山ハ爾來「フリーユ」淘汰盤ノ一部ヲ廢止シ「ビンダー」淘汰盤ヲ代用シ試驗中ナリシカ其結果良好ナルヲ認メタルヲ以テ「フリーユ」盤全部ヲ廢止セリ而シテ其成績ハ殆ンド「フリーユ」盤二臺ニ對スル「ビンダー」盤一臺ノ割合ナリト云フ



大森鑛山 金銀銅 鑛業權者 置 島根縣大森町 合名會社藤田組

本鑛山ハ三十九年以來排水ノ目的ヲ以テ開鑿セル永久疏水坑道以下三百八十七尺ニ掘進シ佐藤鑛鑢三十五番ノ下底ニ於テ脈幅九尺内脈石三尺ノ豐富ナル含銀銅鑛ニ會シタリ又第二發電所ハ前年ヨリ計畫中ナリシカ四十年九月竣工シ百二十馬力水管式汽罐二坐百五十馬力複式汽罐一坐及百「キロワット」直流發電機一臺ヲ据付タリ

本山ニ於ケル福石ト稱スル豐富ナル銀鑛ハ管テ「ラツセル」式又ハ「キツス」式等ノ沈澱製鍊法ヲ試ミシモ共ニ不結果ニ終リシカ四十年秋季ヨリ熔鑛爐ヲ増築シ其富鑛ヲ銅鑛ニ加ヘテ製鍊シ以テ銀分ヲ拾集スルノ計畫ヲ爲セリ

伊田鑛山 銀銅鉛亞 鑛業權者 置 岡山縣赤磐郡 坂本合資會社

本鑛山ハ鑛業權ノ現鑛業人ニ移リシ時始メテ製鍊ノ計畫ヲ立テ四十年五月以來燒鑛窯一坐八千貫入七坐熔鑛爐二坐眞吹床二坐ヲ裝置シ其原動力ニハ「ルーツ」三番形送風機經二尺五寸ノ送風機及十馬力石油發動機ヲ運轉セリ

川田山鑛山 銅鑛 鑛業權者 置 德島縣麻植郡 原田善三郎

本鑛山ノ探鑛地域ハ盡ク排水準以下ニ在リ湧水漸次増加スルヲ以テ排水ノ爲メ四十年秋以來坑内二箇所ニ「オウシントン」唧筒ヲ据付タリ又運搬用斜豎坑(三十六度半)ニ九封度軌條ヲ布設シ徑四分延長百九十三尺ノ索鋼ヲ使用セル捲揚機ヲ設置セリ其發動機ハ「コルニシユ」式汽罐常用汽壓百封度(?)ニシテ横置式「ウインチ」一個ヲ運轉セリ

持部鑛山 銅鑛 鑛業權者 置 德島縣名西郡阿野村 藏

本鑛山ハ運搬力ヲ増大ナラシムルノ計畫ヲ以テ四十年下半年期中ニ於テ山麓字三谿ニ至ル約一里間ニ單線式空架鐵索ヲ架設セリ其運搬力ハ一日二萬貫ヲ下ラスト云フ探鑛ニ於テハ水準以下約百尺ノ地點ヨリ更ニ大切鑛ノ開鑿ニ着手シタルガ約千三百尺ニシテ鑛床ニ達スルノ豫定ヲ以テ目下約三百尺ヲ掘進セリ又西部斷層以西ニ存在スル鑛床ニ達スルノ目的ヲ以テ新六番坑道ノ開掘ニ着手シタリ

富岡鑛山 銅鑛 鑛業權者 置 高知縣吾川郡 田中銀之助外一名

本鑛山ハ三十九年九月現鑛業權者ノ有ニ歸シタル以來二個ノ横坑ヲ開鑿シ專ラ探鑛ニ力ヲ盡シタリシカ現今ニ至リ厚サ五尺餘ノ含銅硫化鐵鑛床ニ遭遇セリ製鍊ニ於テハ新タニ内徑三尺五寸高サ十二尺ノ「ピルツ」式高爐一坐ヲ設置ス發動機トシテハ十五馬力「ベルトン」水車ヲ使用セリ

別子鑛山 銅鑛 位 置 愛媛縣新居郡別子山村 鑛業權者 住友 岡 吉 左衛門

本鑛山東延大斜坑ノ燒跡修理ハ三十九年十二月中ヨリ着手セシカ今ヤ將ニ第三番坑道水準マテヲ完成セントセリ而シテ第三番坑道ト第六番坑道ノ間ニ更ニ斜坑ヲ連絡セシメントシ目下急進中ナリ此ノ二者ノ竣工期ハ殆ト同時ノ豫定ニシテ竣工ノ曉ハ離便捲揚機ヲ設置スルノ計畫ナリ又前年以來開鑿中ナリシ都間歩ノ舊坑ハ既ニ第一墜道水準ナル一番坑道西詰ニ連結シ其四坑道

ニ向ヒ「シユラム」鑛岩機ヲ使用シ斜坑ヲ開鑿スルノ目的ヲ以テ掘進中ナリ  
四十年六月鑛夫暴動ノ際蒙リタル幾多ノ工作物運搬機關ノ損害ニ就テハ銳意復舊ノ善後策ヲ講  
シタルヲ以テ同年十月ニ至リ東平選鑛場ノ燒跡ニ選鑛場ノ一部ヲ新築シ從來使用セル嚙鑛機ト  
同型同大ノモノヲ二臺ヲ据付ケ又「ブライヘル」複線式鐵索ノ修理ヲ終リタレハ一時多大ノ障害  
ヲ受ケタル操業モ茲ニ稍々復舊ヲ見ルニ至リ其他損害ヲ被リタル工作物及諸設備ハ孰レモ目下  
着々新設中ニ在リ

四坂島製鍊所ニ於テハ現在ノ熔鑛爐ト同型同大ノ燒鑛吹熔鑛爐一座及生鑛吹熔鑛爐一座ヲ新設  
シ四十年十二月ヨリ之カ使用ヲ開始セリ

又昨年三月以來骸炭窯二十六座ヲ同島ニ新設シ一箇月骸炭產出高四十萬貫ノ豫定ナリト云フ之  
ト同時ニ從來新居濱ニ設置セシ同窯ハ全部之ヲ廢止セリ

## 波佐見金山

金銀鑛

鑛業權者 置 長崎縣彼杵郡上波佐見村  
波佐見村

從來本鑛山ノ原動力タリシ蒸汽力ヲ廢シ佐賀縣佐賀郡小關村川上川ノ上流ニ發電所ヲ設ケ水力  
電氣ヲ應用スルノ計畫ニ着手シ又事務所製鍊所使用人住宅其他附屬建築物ヲ全然改築シ且ツ本  
鑛山ト有田町トノ間ニ電話ヲ架設シ又架空鐵索運搬車ヲ設ケ鑛滓ノ運搬ヲ圖リ本鑛山需用ノ煉  
瓦製造所及機械類製造ノ鑄工場ヲ設置シタルカ如キハ本鑛山事業ノ革新并ニ擴張ニ屬スルモノ  
ナリトス

又探鑛又ハ冶金等ニ關スル施業上革新ヲ加ヘタルモノハ從來不完全ナリシ舊坑道ヲ改修シ若ハ

新坑道ヲ開鑿シ主要坑道ハ八、八梓トシ將來探鑛ニ際シ總テ電車ヲ以テ運搬スルノ準備ヲナシ同  
時ニ一定ノ距離ヲ以テ橫坑道ヲ開鑿シ又坑井ヲ咋リ上部坑道トノ連絡ヲ附ケ運搬、通風及階段採  
鑛ノ便宜ヲ圖リタル等營業上必要ナル諸準備ヲ完成セリ

## 鯛生野鑛山

金銀鑛

鑛業權者 置 大分縣日由郡中津江村  
南郷鑛之助 外六名

本鑛山ニ於テハ先年來坑内主要部分ノ湧水増加シ人力ヲ以テ排水スルコトハ不可能ナルニ至リ  
シヲ以テ排水用蒸氣機罐「コルニツシ」式一臺据付準備中ノ處明治四十年四月落成シ使用スルニ  
至レリ

## 日平銅山

銅鑛

鑛業權者 置 宮崎縣東臼杵郡北方村  
藤 政 舉

本鑛山ニ於テハ事業ノ進捗ニ伴ヒ電力不足ヲ告グルニ至リタルヲ以テ三十八年更ニ擴張工事ニ  
着手シ當鑛山ヲ距ル約一里半家片内ニ第二水力發電所ヲ設置シ同四十年九月竣成シ水頭二百八  
尺水量一分間二千立尺ヲ以テ六百五十馬力ノ電力ヲ起シ排水、捲揚、選鑛、製鍊、精米及索道等ノ諸機  
械ニ利用シ一層ノ便宜ヲ得ルニ至レリ

## 牛尾金山

金銀鑛

鑛業權者 置 鹿兒島縣伊佐郡大口村  
牛尾金山株式會社

從來製鍊及坑内揚水用唧筒、捲揚機等ノ原動力ヲ得ル爲メ石炭ヲ用ヒ汽罐、汽機等ヲ使用セルモ明  
治四十一年一月ヨリ凡テ電氣力ニ變更スヘキ計畫ニテ目下諸機械即チ汽機一臺發電機一臺電動  
機四臺、橫置式電氣「タービン」唧筒三臺及豎形吊下ケ電氣「タービン」唧筒四臺ノ設備中ナリ

## 芹ヶ野鑛山

金銀鑛

鑛業權者 置 鹿兒島縣日置郡串木野村  
重 忠

本鑛山ニ於テハ明治三十九年七月以降探鑛ト同時ニ探鑛準備ノ目的ヲ以テ鑛區内各所ニ大通洞及坑道ノ開鑿ニ着手セリ製鍊場ハ新ニ鑛區ノ西南約六百間ノ場所ニ選定シ搗鑛并ニ青化製鍊法ニ依リ金銀ヲ抽收スルノ設備ヲナセリ而シテ一日ノ處理鑛量七十五噸ノ豫定ニテ同四十年六月以來製鍊場ノ新築ニ着手シ既ニ地均ヲ終結シ目下石垣工事中ナリ

又自稼水車搗鑛機ヨリ生スル泥鑛ニ對シ青化製鍊試驗ノ好果ヲ收メ近來ハ毎月泥鑛十五萬貫ニテ金七百五十匁銀七貫餘ヲ得ルニ至リ鑛產額ハ漸次増加スルニ至レリト云フ

山ヶ野鑛山 金銀鑛 位 置 鹿兒島縣始良郡薩摩郡橫川村 鑛業權者 島津忠重

三番瀧新製鍊所ヲ四十年十月中開始シタルハ當鑛山事業擴張ノ一ニシテ探鑛ニ關スル施業上ノ革新ヲ加ヘタルモノト稱スヘキモノハ胡摩目坑ニ於テ從來人力ニテ鑛車ノ運搬ヲナセシヲ新ニ二十五封鐵軌道ニテ一噸入鑛車數臺連結ヲナシ馬力ニテ坑外ニ運搬スルノ裝置ヲ爲セル一事ナリトス

大口鑛山 金銀鑛 位 置 鹿兒島縣伊佐郡大口村 鑛業權者 岩月直彦 外四名

本鑛山ニ於テハ明治四十年八月ヨリ一度製化青鍊ヲ終リタル泥鑛ヲ再製シ尙ホ其内ニ殘留セル金銀分ヲ抽收スルノ裝置ヲ開始セリ蓋シ當鑛山ニ於ケル搗鑛混汞製鍊ノ泥鑛中ニハ通例百萬分ノ一、二内外ノ金分殘留セルカ故ニ之ヲ青化製鍊ニ付シテ其八十%ヲ收得スルモ尙ホ二十%ハ青化製鍊殘滓ニ存留セルヲ以テ更ニ長二十九間興行四間ノ假工場ヲ設ケ此内ニ熔解槽七十五個ヲ裝置シタリ然ルニ之レカ爲メ毎月六百匁ノ產金ヲ増殖スルヲ得ルニ至レリ

又從來ノ蒸汽力ヲ全廢シ渾テ電氣力ニ變更シ探鑛ニアリテハ排水及捲揚トモ專ラ此ノ力ニ籍リ冶金ニアリテハ搗鑛機、壞泥機、傾斜道捲揚及製作工場ノ動力ハ各別ニ電動機ヲ裝置シ運轉スルノ設備ヲナシ施業上革新ヲ加ヘタルカ爲メ消費炭價ノ約三分ノ一ヲ節約スルニ至レリト云フ

## (二) 石炭山

万字炭鑛 位 置 北海道石狩國夕張郡登川村 鑛業權者 北海道炭礦汽船株式會社

本炭坑ハ從來探炭準備トシテ三四ノ坑道掘鑿セシニ止マリシモ這回運搬ニ關スル設備トシテ夕張第一鑛貯炭場トノ間ニ玉村式複線鐵索二萬尺ノ架設ニ着手セリ本工事竣成ノ上ハ一日約四百噸ヲ搬出シ得ル見込ナリ

夕張第一鑛 位 置 北海道石狩國夕張郡登川村 鑛業權者 北海道炭礦汽船株式會社

本炭坑第二斜坑奥ニ直立約五百五十尺ノ堅坑ヲ掘鑿シ探掘炭ハ堅坑口ヨリ鐵索ヲ以テ一番坑附近ノ貯炭場ニ搬出セシメ且ツ選炭機ヲ新設スルノ計畫アリテ既ニ工事ニ着手セル部分アリ而シテ此堅坑掘鑿工事ハ四十一年ヨリ五箇年間ノ繼續事業ニシテ竣成ノ上ハ右堅坑ノミニテ一箇年約三十萬噸ヲ出炭シ得ヘキ見込ナリ

空知炭鑛 位 置 北海道石狩國空知郡歌志內村 鑛業權者 北海道炭礦汽船株式會社

本炭坑西山方面ノ探炭ヲ神威貯炭場ニ搬送スル爲メ玉村式高架鐵索八千五百尺ヲ架設シ之レニ四分一噸積ノ「バケット」ヲ裝置セリ「ロープ」ノ徑ハ一時ニシテ一日ノ運搬量約四百噸ノ見込ナリ而

シテ該貯炭所ニハ新ニ左ノ選炭機ヲ設置シ一日ノ選炭量約六百噸ノ見込ナリト云フ

「バーホレーテッド、バー、シエキング、スクーリン」 二臺

手選帶 二臺

「バーホレーテッド、シエキング、スクーリン」 二臺

選炭用跳汰機 二臺

「エリオット」洗炭機 二臺

歌神炭礦 位 置 北海道石狩國空知郡歌志内村  
礦業權者 濱田愛次郎

本炭坑ニ於テハ約十六町ヲ距ル歌志内停車場構内ニ積込場ヲ新設シ馬力ヲ用ヒテ運搬シ又選炭場ヨリ積込場ニ至ル間ハ十四封度軌條ヲ敷設シ「ホース、ウイーム」ニ依リ搬送セリ尙現今工事中ニアルモノハ選炭所ノ増築ニシテ遠カラス竣工ヲ見ルニ至ルヘシ

山縣奔別炭礦 位 置 北海道石狩國空知郡三笠山村  
礦業權者 日本興業株式會社

本炭坑ニ於テハ選炭場ヨリ坑口ニ至ル約千三百間ノ選炭軌道複線工事及幾春別停車場ヨリ選炭場ニ至ル鐵道岐線ノ布設工事ニ着手シ土工ノ殆ント全部ヲ竣成セリ尙ホ現在ノ選炭場ハ岐線ノ布設并ニ複線工事ノ完成ニ伴テ改築シ選炭方法ヲ改善スル計畫ナリ殊ニ複線工事起工ニ依リ嘗テ軌道ノ不完全ナリシ箇所ハ總テ之ヲ改修シテ搬出ヲ容易ナラシメ又木製四輪車ニ代フルニ鐵製四輪車ヲ以テシ既ニ百輛ヲ運轉シツ、アリ其他新規坑道ノ開鑿ニ着手シタルモノアリテ出炭著ク増加セリ尙ホ融雪後ニ至レハ更ニ「インクライン」工事ニ着手スルノ計畫アリ

齋藤留萌炭山 位 置 北海道天鹽國留萌郡留萌村  
礦業權者 齊藤一知

本炭坑ニ於テハ新ニ捲揚坑道、排氣坑道、人道坑ノ三斜坑及三條ノ橫坑開鑿ニ着手シ且ツ石炭及磐石搬出ノ爲メ橫置複索聯動式曳揚機械（實馬力八十八公）一臺及陸用「コルニユツシュ」式汽罐馬力四十

五（二臺）ヲ設置セリ

入山炭坑 位 置 福島縣石城郡内郷村、湯本村  
礦業權者 入山炭株式會社

本炭坑ニ於テハ第三豎坑ノ四方九十二間ノ處ニ長サ十五尺幅八尺ノ排氣豎坑深サ三百七十尺餘ノ豫定ノ開鑿ニ着手セリ同豎坑ヲ利用シ此處ニ「キヤベル」式扇風機ヲ据付ケ四十年六月ヨリ運轉ヲ開始シ第三坑々内ノ通氣ヲ完全ナラシメタリ

四十年三月湯本村大字湯本小字日渡地内ニ於テ更ニ第四豎坑開鑿ニ着手シ既ニ百七十餘尺ヲ掘進セルモ捲揚機械汽罐等ヲ据付ケサルヘカラサルヲ以テ其工事落成マテ該豎坑ノ掘進ヲ中止シ目下坑口裝置ノ準備中ナリ

前記日渡地内ニ於テハ尙ホ排水用豎坑（長サ十四尺幅十一尺）開鑿ニ着手セリ

川平坑ニ於テハ四十年八月以來出水量増加セルヲ以テ排水ニ要スル四臺ノ唧筒ヲ増設セリ第四豎坑ヨリ運輸ノ便ヲ計ランガ爲メ湯本驛ニ通スル四十一鎖ノ鐵道布設中ナリ

好間炭坑 位 置 福島縣石城郡好間村  
礦業權者 好間炭礦株式會社

本炭坑ニ於テハ明治三十九年中第一斜坑開鑿ニ着手シ四十年二月ニ至リ、ランカッシャ「汽罐」二個ヲ設置シ三月ニ至リ前記斜坑用復汽筒捲揚機ヲ設置シ該斜坑附屬水平鑛車坑道數七個ヲ増加セ

リ、又四十年十月第二斜坑開鑿ニ着手シ捲揚機械据付準備中ナリ其他選鑛ニ關シテハ選炭機一臺ヲ設置セリ

採炭量ハ近年益々増加セルニヨリ從來使用セル好間、平間ノ輕便鐵道ニテハ、輸送力ノ不足ヲ來セシニヨリ本山ヨリ綴驛ニ至ル約二哩餘間ニ本鐵道ヲ布設シ常盤線ニ連絡セシムルノ設計ヲ爲シ既ニ其工事ニ着手セリ

茨城無煙炭坑 石炭

位 置 茨城縣多賀郡幸川村  
鑛業權者 茨城無煙炭礦株式會社

本鑛區ノ斜坑タル本卸捲立坑ハ炭層傾斜ト反對ニ開鑿セシレバ逆斜坑ニシテ不便少ナカラサリシカ四十年ニ至リ順斜坑ヲ開鑿シテ之レニ代ヘクリ

大ノ浦炭坑 位 置 大ノ浦炭坑 鑛業權者 足尾郡宮田村外二村  
滿ノ浦炭坑 鑛業權者 足尾郡宮田村外二村

管牟田坑第五坑ノ開設 大ノ浦鑛區ノ最南端ナル香井田村ト稱スル地區ノ炭層ハ末着手ノ新區域ナルヲ以テ之カ採掘ノ目的ヲ以テ去ル明治三十八年以後運搬斜坑道及排氣斜坑道ノ開鑿ニ着手シ四十年ニ至リテ工事大ニ進捗シ着炭點迄僅ニ八十間ノ距離ヲ有スル場所ニ達シタレハ尙ホ今回「リットル、ウォンダー」式鑿岩機五臺ヲ購入シ空氣壓搾原動機ノ据付モ完成セニ付該機ニ依リ掘進スルノ計畫ナリト云フ竣工ノ曉ニハ一日約八百噸ノ出炭ヲナスヘキ企圖ニテ明治四十一年中ニハ常設捲揚機及汽罐ヲ新設スヘキ豫定ナリ又石炭積入場ハ狹隘ヲ告クルニ付第五坑々口前ニ一日約千五百噸餘ヲ積込ミ得ル積込場ヲ新設シ既ニ九州鐵道支線ノ布設モ完成セシニ付愈該積入場開始ノ曉ニハ第一坑第二坑及第五坑等ノ石炭ヲ全部此積入場ニ集中スルノ計畫ニテ目

下其設備中ナリ

桐野坑桐野發電場ノ開設 明治三十九年以來管牟田坑桐野坑及滿ノ浦坑ニ電燈ヲ設備シ漸次唧筒諸機械ニ電力ヲ應用セントノ目的ニテ以上三坑ノ中央發電場ヲ設置センカ爲メ明治四十年八月起工シ十一月其落成ヲ告ケタリ

桐野坑斜坑ノ開鑿 桐野第二坑區ニ新ニ斜坑ノ開鑿ニ着手セリ此坑區ニテハ三百七十間ニシテ現在採掘セル坑内ニ達シ其深部ノ採炭ヲナスニ出炭及通氣ヲ容易ナラシムル目的ニテ目下七十五間許リ進行シ今後二箇年半ニシテ竣工セシムルノ豫定ナリト云フ傾斜ハ平均十九度四十五分ニシテ坑口ヨリ約二十間ノ間ハ高サ八尺足元十二尺ノ煉瓦「アーチ」ヲ捲キ其以下ハ凡テ高サ七尺五寸上幅八尺五寸下幅十二尺ノ坑道トナシテ木杵ヲ使用セリ

滿ノ浦坑斜坑ノ開鑿 宮田村大字長井鶴字前田ニ第三坑ノ増設開鑿ニ着手セリ而シテ其施設ノ方按ハ本卸及人道卸ノ斜坑ヲ開鑿シ掘進二百二十六間ニシテ着炭シ三尺層及五尺層ノ兩炭層ヲ採掘シ一箇年間二十一萬七千噸ヲ出炭セシムヘキ計畫ナルモ現今ニテハ其工程尙ホ本卸十五間人道卸三十七間ヲ開鑿セルニ止マレリ

餘田炭坑

位 置 福岡縣嘉穂郡笠松村外三村  
鑛業權者 三益合資會社

第三坑發電所ノ建設 第三坑ニ新ニ發電所ヲ建設シ「パブコック、アンドウキルコックス」水管式汽罐

(加熱面積二千四百九十七平方呎)二個及「バーソンス、スチーム、タービン」直結五百「キロワット」三相交流

二千二百「ボルト」六十「サイクル」千八百回轉ノ發電機二臺ヲ裝置シ第三坑坑底一部ノ排水ニ電氣



唧筒ヲ採用セントス而シテ此工事ハ明治四十一年春竣工スヘキ豫定ナリト云フ  
第四坑ノ開鑿 明治四十年春第三坑ヲ距ル南方約一哩許庄内村大字有井ニ第四坑ヲ開鑿ス動力ハ總テ第三坑發電機ヨリ電力ヲ導キテ使用スルノ計畫ニテ目下其準備中ナリ  
第五坑ノ開坑準備 第三坑ヲ距ル南方約五哩即チ鯉田鑛區ノ南端稻築村大字鴨生ニ於テ第五坑ヲ開坑スル爲メ明治四十年春以來二箇所ニ二個ノ試錐ヲ施シ好結果ヲ得タルヲ以テ土地ヲ買收シ目下開坑準備中ナリ

新入炭坑 位置 福岡縣鞍手郡新入村  
鑛業權者 三菱合資會社

第一坑發電所ノ建設 第一坑ニ新ニ發電所ヲ建設シ「バブコック、アンド、ウキル」コックス水管式汽罐（加熱面積二千四百九十七平方呎）二個及「バーソンス、スチーム、タービン」直結五百「キロワット」三相交流二千二百「ボルト」六十「サイクル」千八百回轉ノ發電機二臺ヲ据付ケ第一坑坑底一部ノ排水ニ電氣唧筒ヲ採用セントス而シテ此工事ハ明治四十一年春竣工ノ豫定ナリ竣工後ハ發電所ニ汽罐二個ヲ増設シ第五坑ニ送電シ第五坑坑底一部ノ排水ニ電氣唧筒ヲ採用スルノ設計ナリ

方城炭坑 位置 福岡縣田川郡方城村外二箇村  
鑛業權者 三菱合資會社

坑道ノ掘進ハ專ラ第二坑ヨリ行ヒ明治四十年中ニ於テ開掘シタル總延長ハ七千九百呎ニ達セリ第一坑ハ未タ炭層ニ達セサルモ開鑿工事ノ竣成ニ垂ントシ第二坑槽ハ從來木製ナリシカ明治四十年ニ於テ高サ七十呎ノ鋼鐵トナシ鑛車二個ヲ同時ニ搭載シ得ルノ捲揚臺ヲ使用スルコト、シ且摺ラセニハ鋼鐵製ノ針金綱ヲ採用スルコト、セリ又發電機一臺扇風機二臺設備工事中ナリ

又當炭坑ニテハ從來採炭法ハ主トシテ手掘ヲ行ヒシモ明治四十年ヨリ「リットル、ハーデー」式採炭機ヲ試用シ且發破ヲ應用セシニ未タ満足ナル結果ヲ得サルモ其進行ノ速度ハ手掘ニ比シ三倍乃至四倍以上ニ及ヘリト云フ又雷管ハ總テ電氣雷管ヲ使用セリ

明治炭坑 位置 福岡縣嘉穂郡田村  
鑛業權者 鞍手郡野下境村  
田川郡上野村  
安川郡一野村

第四坑ノ開鑿 明治四十年六月福地村大字中泉地内ノ第四坑開鑿ニ着手シ本卸、連卸二個ノ斜坑ヲ開坑シ既ニ本卸百十間連卸百間ヲ掘進シタルモ豫定着炭點百五十間ニ達スルニハ猶數月ヲ要スヘク竣工ノ曉ハ一箇年十一萬噸ノ採掘ヲ増加スヘシト云フ

赤池炭坑 位置 福岡縣田川郡上野村外二箇村  
鑛業權者 安川郡一野村

斜坑開鑿 山張炭ト稱スル炭層採掘ノ目的ニテ明治四十年五月ヨリ斜坑二箇所開鑿ニ着手シ目下其工事中ナリ

金田炭坑 位置 福岡縣田川郡神田村外三村  
鑛業權者 毛利元昭

高層採掘法ノ開始 當炭坑鑛區内ニ存在セル八尺層ハ從來既ニ大部分ノ坑道掘進ヲ了リタレハ主トシテ殘柱柱引法ニ依リ採炭シ來リシカ該炭法ニ依ルトキハ八尺層ノ上部ニ接觸セル五尺層（七ヘダ層ハ）ハ八尺層柱引採炭跡ニ不定時ニ崩落シ操業上屢危險ヲ生セシノミナラス五尺層ハ其崩落セル石炭ノ一部ノミヲ拾收シ五尺層ノ含有總炭量ノ十分ノ一ヲ拾收スルニ過キサリシニ付明治四十年二月以後高層採炭法ニ則リ五尺層、八尺層ヲ上下二段ニ分チテ採掘ヲ試ミタルニ頗

ル好果ヲ奏シ上下兩層ノ石炭全量ヲ採取シ得ルノミナラズ從來屢探掘跡ニ爆發瓦斯ノ鬱積セル傾向アリシヲモ豫防シ得ヘク又柱引中不意ニ上層炭ノ崩落ニ伴フ出水(俗ニ野水ト稱ス)ヲモ防クヲ得タルヲ以テ大ニ操業上ノ危險ヲ減少セシムルニ至レリ

三井山野炭坑 位 置 福岡縣嘉穂郡稻築村外三村  
礦業權者 三井礦山合名會社

漆生坑鴨生坑ノ開鑿 明治四十年一月ヨリ漆生八尺層ヲ探掘スルノ目的ヲ以テ稻築村大字漆生小字初木ニ漆生坑ノ開鑿ニ着手シ又平五尺層ヲ探掘スルノ目的ヲ以テ同村大字鴨生小字別田ニ鴨生坑ノ開鑿ニ着手セリ右ハ何レモ露頭ヨリ炭層ニ沿ヒ本卸排氣卸及人道卸ヲ進掘スルモノニシテ目下延長各八十餘間ニ達ス坑外ノ設備モ亦進涉セリ而シテ兩坑ノ出炭ヲ山野選炭場協ノ筑豐線積場ニ搬出スル爲メ運炭路工事中ナリ

海軍御德炭坑 位 置 福岡縣鞍手郡勝野村外二村  
礦業權者 海軍省

第四坑ノ設備 坑口見張所同附屬便所及浴室木材庫物置場非常要具置場排氣筒汽罐室增築煽風機發電機室汽罐室附屬煙筒仕上工場納屋附屬浴室火藥庫等各一棟其他建物數棟ノ建設ヲ了シ尙給水及火災用水溜汽罐室附屬給水機室并電燈等建設工事ニ着手中ナリ其他汽罐煽風機發電機及原動機ノ増設唧筒ノ据更ヘ排氣坑ノ開鑿等各種ノ改良ヲナセリ

第五坑ノ設備 本坑ハ明治三十九年七月開坑ニ着手シ本卸連卸人道卸等ノ坑口掘鑿ヲナシ爾來開鑿工事ヲ進行セシメ現今ニ至ル迄坑内外各種ノ設備ヲナセリ

製鐵所二瀬炭坑 位 置 福岡縣嘉穂郡二瀬村外一町三村  
礦業權者 農商務省

中央豎坑深サ二百五十尺ノモノヲ開鑿シ圓形煉瓦造煙突高百八十尺ノモノヲ設ケバーソン、スチーム、タービン二臺、バブコック、アント、ウキルコック水管式汽罐二臺、鐵骨煉瓦造汽罐室一棟同捲揚機室及發電所一棟建設工事中ナリ

大任炭坑 位 置 福岡縣田川郡川崎村外二村  
礦業權者 原六郎

本炭坑ノ坑内ハ從來七尺梓張ヲナシアリタルモ坑口ヨリ坑底ニ至ル四百二十間ノ處坑道ヲ切上切廣メ幅員十一尺トシ梓張十尺ニ組立テ之ニ複線ヲ布設シ坑口ヨリ從來ノ捲器械揚裏山ノ山腹マテ七度三十分ノ傾斜ニテ棧橋ヲ架設シ山腹ヨリ六十五間ノ山ヲ切割リ茲ニ「エンドレス、エンジン」ヲ布設シ搬出セシ炭車ハ是レヨリ自働車ニ依リテ選炭場マテ急降シ選炭ノ上汽車積込ノ計畫工事中ナリ

宮崎豐州炭坑 位 置 福岡縣田川郡川崎村  
礦業權者 宮崎鐵一

五尺層第二坑ノ開坑 明治四十年五月着手セル第二五尺坑ハ從來ノ眞卸舊坑道ヲ利用シ是レヲ捲揚坑道トナシ更ニ通氣坑ヲ開鑿シ漸次深部ニ向ヒ掘進セシメ新設ノ運搬坑道モ既ニ左右各一片磐ヲ開鑿シ坑外ニ捲揚機ヲ設ケ汽罐ヲ増設シ尙ホ排水設備モ畧完成シタルヲ以テ斜坑道開鑿ノ掘進ニ伴ヒ着々事業ノ進捗ヲ見以テ探鑛ノ設備ヲ完全ナラシメントス目下一日ノ出炭量約百五十噸ナリトス

三好炭坑 位 置 福岡縣遠賀郡水巻村外二村  
礦業權者 三好德松

本炭坑貯炭場ヨリ積込場ニ至ル運搬ハ從來馬匹ヲ用ヒ來リシモ其距離八百有餘間ニシテ不便少

ナカラサルヲ以テ漸次出炭ノ増加ニ伴ヒ改良ノ必用ヲ生シ明治四十年八月「エントレス」機設置ノ計畫ニ着手シ更ニ五百三十七間餘ノ道路ヲ改修シ不日竣成ヲ見ルニ至ルヘシ竣成ノ曉ニハ一日一百萬斤ノ送炭ヲナシ得ヘク大ニ輸送上ノ便ヲ得ヘシ

**忠隈炭坑**

鑛業權者 住友 福岡縣嘉穂郡波村外一町一門村

本炭坑ニ於テハ石炭積入場ヲ改修シ從來三線ナリシ九州鐵道引込線ヲ五線ニ増設シ選炭機一臺ヲ新設シ明治四十年二月ヨリ其運轉ヲ開始シ選炭及運炭ニ關スル事業ノ改良ヲナセリ

**香春炭坑**

鑛業權者 熊谷 福岡縣田川郡勾金、伊田村

明治四十年八月四尺坑本卸添卸及角尖坑本卸添卸四坑口ノ開鑿ニ着手セシヨリ着々事業進捗シ掘進孰レモ五十間乃至六十間ニ及ヒ四尺坑ニ未タ着炭セサルモ角尖坑ハ既ニ着炭シ切羽ヲ設備中ナリ

**添田炭坑**

鑛業權者 福岡縣田川郡添田村

本坑ニ於テハ字高畑ニ新坑ヲ開鑿シ本坑分坑高幡坑ト稱ス同坑ニハ汽罐据付ヲナシ現今盛ニ採炭ヲナセリ

**相田炭坑**

鑛業權者 福岡縣嘉穂郡二瀬村

第四坑ノ開鑿 第一坑五尺炭ノ一部ヲ探掘スルカ爲メ第四坑ヲ開鑿ス當坑ハ斜坑ニシテ二十度ノ傾斜ヲ有シ坑口ヨリ五十間ニシテ着炭スル豫定ナリト云フ

蒸氣卸開鑿 右第四坑ニ對スル蒸氣卸ハ坑口ヨリ二十五間ニシテ第一坑々内ニ貫通セリ斜坑ニ

シテ三十五度ノ傾斜ヲ有ス

**金谷炭坑**

鑛業權者 福岡縣田川郡神田村

明治四十年七月神田村ニ新坑ヲ開鑿シ目下掘進中ナリ坑外ニハ「ホルニ」式汽罐二臺ヲ据付又建物等ハ漸次之レヲ建設セリ

**木屋瀬炭坑**

鑛業權者 福岡縣鞍手郡木屋瀬町、遠賀郡香月村

本炭坑ニ於ケル第二坑ニハ從來使用ノ捲揚機械ヲ撤去シ更ニ二十二吋兩「シリンド」ト据替準備中ニシテ第一坑ニハ「エバンス」式二十吋唧筒二臺ノ据付ヲ了セリ

**第二鴻ノ巢炭坑**

鑛業權者 福岡縣鞍手郡勝野村

當坑ハ從來八尺層ノ採炭ヲ爲シタリシモ明治三十九年五月ニ至リ擴張事業ノ第一着手トシテ八尺層ヨリ戻リニ五尺層ニ掘鑿シ同年八月着炭シ漸次八尺層ノ採炭ヲ廢シ明治四十年一月以後專ラ五尺層ノ採炭ヲ爲セリ而シテ坑外ニ於テハ「スベシャル」式十二吋捲揚機械ノ裝置ヲ爲シ之レニ由リテ出炭ヲ搬出スルニ依リ大ニ經費ヲ減スルニ至レリ又坑外ノ運炭法ハ四十年三月起工シ坑所ヨリ笹原炭坑專用運炭軌道迄七百六十六間ノ自家專用軌道ヲ布設シ笹原炭坑線ニ連絡シ臼井驛積場棧橋ニ於テ貨車積ヲ爲スニ依リ大ニ運炭上ノ便益ヲ得タリ

**柚ノ木原炭坑**

鑛業權者 佐賀縣小城郡北多久村、東松浦郡嚴木村

本炭鑛中本坑及二坑ト稱スル兩坑ハ既ニ炭層ヲ探掘シ盡シ更ニ三坑ノ二枚炭ヲ探掘セルカ爲メ出炭上著キ増減ナキモ明治四十年六月豎坑開鑿ニ着手シ目下百十七尺餘ノ進掘ヲナセリ該豎坑

ハ排氣排水用井ニ坑夫昇降用ニシテ幅八尺横二十尺(内排氣排水用)深ナ二百十六尺ノ豫定ニシテ同四十一年三月落成ノ見込ナリト云フ

芳谷炭坑 位 置 佐賀縣東松浦郡北波多村外一村  
鑛業權者 芳谷炭礦株式會社

第三坑ノ設備明治三十九年七月着手セシ第三坑開鑿事業着々進捗シ目下日々二百噸以上ノ出炭ヲ見ルニ至リ通風設備トシテハ扇風機「ギーバル」式徑二十三呎幅八呎ノモノ一臺据付中ニ屬シ排水設備トシテハ三聯筒電氣唧筒五臺据付了シ捲揚用トシテハ横置双汽笛捲揚機一臺ヲ設ケ一回ニ石炭七千斤入炭函二十五函ヲ聯結シ之レヲ坑外ニ捲揚クルニ至リ又原動力設備トシテハ汽罐二臺給水唧筒二臺据付了ヘ原動力ハ電氣力ヲ用ヒ第一坑第二坑事業場ニ据付アル百五十「キロワット」三相交流發電機三臺ニ由リ之レヲ供給スルモノトス

運搬設備 芳谷本坑即チ第一坑第二坑ト第三坑トノ間四百三十間ニハ既ニ「エンドレスロープ」ヲ布設シ第三坑ニ於ケル出炭ハ一切本坑選炭機ニ送り之レヲ精選セシムルノ裝置ヲ爲セリ

松浦炭坑 位 置 長崎縣北松浦郡世知原村  
鑛業權者 合資會社 松浦炭坑

本炭坑ニ於テハ工場ニ「マーン、レター、ン、チューブ」式汽罐一臺單汽笛豎式徑八吋原動機据付工事中ナリ蓋シ原動機ハ工場内ニ於ケル諸機械ノ運轉用トス又長二十八間幅三間ノ鑛物工場ヲ建築セリ

岸嶽炭坑 位 置 佐賀縣東松浦郡北波多村  
鑛業權者 古賀製次郎 外三名

捲揚機ノ改造從來使用ノ十四吋捲揚機械ハ其不便ヲ感セルニ依リ更ニ十六吋捲揚機械ニ變更製

作中ナリ

第二坑ノ開坑 從來ノ一坑ノミニテハ不足ヲ感セルニ由リ目下第二坑ノ開坑ヲナサント其準備

中ニ屬セリ

選炭機設置 從來選炭ハ人力ニ由レルモ出炭ノ増加ニ伴ヒ選炭機設備ノ必要ヲ感シ目下其製作中ナリ

高島炭坑 位 置 長崎縣西彼杵郡高島村、高灘村  
鑛業權者 三合資會社

本炭鑛々區内ノ中ノ島炭田ニ於ケル下層炭ノ採掘及高島ト中ノ島間ニ介在セル未採掘炭田ノ探掘ヲ目的トシテ新ニ起工セル二子開坑工事ハ坑口ノ周邊ニ高十四尺厚サ平均八尺長サ四百五十八尺ノ防水石垣ヲ築造シタル後明治四十年七月ヨリ二個ノ斜坑開鑿ニ着手シ目下其延長各約二十間ニ達セリ其他坑外設備トシテハ汽罐室ノ築設、假捲揚機ノ裝置家屋ノ建築土地ノ埋立等目下工事中ナリトス

右記載シタルモノ、外事業ヲ擴張シ又ハ擴張計畫中ノ鑛山ハ北海道新夕張第一礦ニ於テハ從來操業上機械力ニ依ラサリシモ木工場其他原動力トシテ横置火管歸船式常用壓力每平方吋百磅ノ汽罐一臺并ニ直立複動不凝式二十五馬力ノ汽機二臺ヲ新設シ岩手縣槻柳鑛山ニ於テハ從來使用セル製鍊場(搗鑛器十本)ヲ取毀チ更ニ製鍊場ヲ建設シ五本立搗鑛器六臺ヲ据付ケ四十年下半年ヨリ操業シ岩手縣分澤鑛山ニ於テハ第三搗鑛所ヲ増設シ杵十本ヲ増加シ益々事業ノ擴張ヲ計リ秋田縣松澤鑛山ニ於テハ靑化製鍊場ヲ設ケ從來ノ搗鑛尾ヲ處理シ秋田縣大葛鑛山ニ於テハ團鑛用ノ鐵製「スタン

「二」本ヲ増設シ尙ホ從來使用ノ送風機原動力ヲ石油發動機ニ代フルニ「チルチング」會社製十二馬力瓦斯發動機ヲ以テセリ福島縣姥澤鑛山ニ於テハ從來軌道ノ布設選鑛機械等ノ設備ナカリシカ坑口ヨリ選鑛場ニ至ル間九封度軌條ヲ布設シ鑛車ヲ以テ鑛石ヲ運搬シ選鑛ニ關シテハ嚙岩機一臺跳汰器一臺ヲ裝置シ製鍊ニ關シテハ燒鑛窯鑛場ヲ改築ノ計畫アリ岩手縣ノ仙人鑛山ニ於テハ明治三十九年ニ於テ第二高爐ヲ建設シタル結果木炭製造事業ヲ擴張シ四十年ニ於テ運搬道路ヲ開鑿シ軌條九哩ヲ布設セリ奈良縣共盛鑛山ニ於テハ運搬力ヲ増加スル爲メ吉野川岸ニ達スル約一里間ニ單線式鐵軌ヲ布設シ四十年六月ヨリ其使用ヲ開始セリ

### (三) 石油坑

鑿井又ハ製油ニ關シ特ニ施業上革新ヲ加ヘタルモノアルヲ認メサルモ日本石油株式會社ニ於テハ最近輸入ニ係ル蒸氣吹子及會社ノ設計ニナレル單獨汲ミ石油發動機ヲ使用シ目下試驗中ニ屬セリ

蒸氣吹子 油井深掘ヲ企畫スルニ伴ヒ大形掘鑿器ヲ使用スルニ至リシカ此鍛冶ニハ多大ノ費用ト勞力ヲ要セシカ普通吹子ノ代リニ蒸氣吹子ヲ採用シテヨリ以來少カラス費用ト勞力ノ輕減ヲ得タリ

單獨汲ミ石油「エンジン」

從來多量ノ產油アル油井ニハ各蒸氣機ヲ据付ケ採油シ來リシカ其經費甚タ大ナラル以テ石油

發動機ニ「フリクションクラッチブローレー」ヲ取付ケ蒸氣機ニ代用セシメシカハ同一操作ニ對シ著シク燃料代價ヲ節約スルニ至レリ